

# 令和2年度 防府市立右田中学校 学校評価書

校長（前原隆志）

## 1 学校教育目標

## 2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

## 3 本年度、本校で重点を置いて取り組む目標

<p><b>教育目標</b>                  ふるさと右田を愛し、自ら考え課題に立ち向かう心身ともに健康で、心豊かな生徒の育成</p> <p><b>教育目標達成のために</b>                  ①「チーム右田中」を意識する                  ②「基礎基本」を繰り返し指導する                  ③「思考・判断・表現」できる場を設定する                  ④「学びに向かう力」を教科を越えて育てる                  ⑤「社会性」を育て、声を揃えて校歌を歌う                  ⑥ 社会において許されないことをきちんと教える</p> <p><b>チャレンジ目標</b>                  1 明るい「あいさつ」をする。                  2 「時間」を大切に使う。                  3 中学生らしい「服装」をする。                  4 自ら進んで「掃除」に取り組む。</p>	<p><b>【学習指導】</b>                  ○グループ学習を生かした主体的・対話的な学びが行われている。                  ●家庭等での自学自習への取組に課題がある。</p> <p><b>【生徒指導】</b>                  ○課題場面での情報共有と対応が迅速に進められている。                  ●あいさつや清掃活動の取組に課題がある。</p> <p><b>【心の教育】</b>                  ○道徳授業を要として、体験活動と振り返りを組み合わせた取組が進められている。                  ●適切な信頼関係づくりや道徳的実践力に課題が見られる。</p> <p><b>【校内研修】</b>                  ○ICTを活用した授業を実施している。                  ●伝え合う力の育成が全教科の課題である。</p> <p><b>【地域連携】</b>                  ○学校運営協議会が学校運営で機能している。                  ●校区3小中学校の共通指導が課題である。</p>	<p><b>【学習指導】</b>                  ○アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を進める。</p> <p><b>【生徒指導】</b>                  ○学級や委員会活動、学校行事の活性化に向け、生徒のループリクを活用した自主活動を推進する。</p> <p><b>【心の教育】</b>                  ○山口県教委研究指定校を活用した研修を深め、道徳的実践力を育成する。</p> <p><b>【校内研修】</b>                  ○「伝え合う力の育成」を研修主題とし、互見授業やユニット型研修を推進する。</p> <p><b>【地域連携】</b>                  ○小中連携と地域連携の発展充実に向け、評価基準の小中共同化を推進する。</p>
---	--	---

## 4 自己評価

## 5 学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策（目標達成の手立て）	評価基準	達成度	重点目標達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を進める。	・めあてを明確にし、終末に各自が学びを振り返る授業にする。 ・ICTを活用し、考える時間や発表する時間を大切に授業にする。	・授業への満足度の生徒肯定率 A…90%以上 B…80%以上 C…70%以上 D…70%未満	B	・授業内容の理解や教員への信頼度での生徒の自己評価は8割以上。 ・自主的学習や向学心の伸長に課題が見られる。	○アクティブ・ラーニングの視点から授業改善は評価できる。 ●「やらされる勉強」「外発的動機付けに裏付けられた学習」になっていないか点検する必要がある。自主的学習に向かう興味を持ち調べたいようなテーマの絞り込みを望む。	B
生徒指導	○学級や委員会活動、学校行事の活性化に向け、生徒のループリクを活用した自主活動を推進する。	・生徒達が自ら作成したループリクを活用し、学校生活の現状と課題を自覚する。	・学校生活や生徒会活動生徒肯定率 A…90%以上 B…80%以上 C…70%以上 D…70%未満	A	・規範意識や学校生活に関する生徒の自己評価は9割以上。 ・自己肯定感や将来の夢の育成を図る必要がある。	○生徒会による目標へのチャレンジを評価する。自分たちで目標を決め、実行することは、その内容にも責任を持つことになり大変良い。 ●ループリクだらけになると、ついていけない生徒もいるのではないか。	A
心の教育	○山口県教委研究指定校を活用した研修を深め、道徳的実践力を育成する。	・考え議論する道徳授業を実践する。 ・道徳的成長を記録し、よさを適切に評価する。	・いじめ根絶の取組への生徒肯定率 A…90%以上 B…80%以上 C…70%以上 D…70%未満	B	・いじめ根絶への生徒肯定率は95%。 ・友達に考えを伝えたり、教員が認めてくれると受け止める生徒が約8割。	○指定校としての実践が生徒の姿として体現されている。 ●道徳教育を道徳的実践力の育成に直結すると本来の趣旨から離れてしまう。いじめ解決等の行動決定型でなく道徳的価値を追求する授業であってほしい。	A
校内研修	○「伝え合う力の育成」を研修主題とし、互見授業やユニット型研修を推進する。	・互見授業により授業づくりを核とした校内研修の日常化を図る。 ・授業改善の成果を研究発表会で公開する。	・校内研修に係る教職員肯定率 A…90%以上 B…80%以上 C…70%以上 D…70%未満	B	・研修が授業改善に効果があったとの教員肯定率は約8割。 ・教科と道徳の両面から、授業づくりの工夫が進んだ。	○互見授業の実施など、先生方の「授業力」向上のための積極的な取組は評価できる。道徳から各教科の授業力向上につながった研修として成果があった。 ●教科の枠を超えて、教員による授業分析力、授業評価力を身につけられることを目標としていただきたい。	B
地域連携	○小中連携と地域連携の発展充実に向け、評価基準の小中共同化を推進する。	・評価基準を小中共同化し、共通実践項目の具体化を進める。 ・地域連携による地域貢献を進める。	・地域連携や見守りの生徒肯定率 A…90%以上 B…80%以上 C…70%以上 D…70%未満	B	・情報提供や地域連携への保護者の肯定評価は8割以上。 ・学校評価アンケートを小中共同とし目標を明確にしたが、実態や指導力に課題。	○小中のアンケートの評価項目が揃うことで、共通課題が明確になり、方向性が定まり、具体的実践につながれることは成果である。 ●保護者も中学生本人も「地域から守ってもらおう存在」と認識している。中学生の自主的な地域行事への参加を望む。	B
業務改善	○諸会議の簡素化を図る。	・企画会議での事前打合せを経た起案を徹底する。	・各業務改善に係る教職員肯定率 A…90%以上 B…80%以上 C…70%以上 D…70%未満	B	・事前起案やパワポ化が進んだ。	●業務改善においては、部分としての改善策と、全体としての最適解を加味し、選択と集中により効率化できるものを精査してほしい。	B
	○時間外勤務の縮減を図る。	・ICTを活用し、業務の効率化を図る。		C	・業務改善教職員肯定率は約5割、相談しやすさは約8割。		
	○行事精選の議論を開始する。	・目的吟味や実施時期の検討を進める。		B	・行事精選と効果検証が進んだ。		

## 6 学校評価総括（取組の成果と課題）

## 7 次年度への具体的な改善策

<p>○ICTを活用した教材提示、板書によるめあての明示、グループでの話し合い活動等の授業改善は、着実に進んでおり、継続する必要がある。 ●「授業がよく分からない」と感じている生徒への補充指導が必要である。 ○生徒はループリクを活用した振り返りや目標設定に達成感を感じている。引き続き、生徒の主体性を大切に活動計画を計画する必要がある。 ●あいさつや無言掃除等、集団として基本的生活習慣の確立が課題である。 ○道徳授業の重点研修と実践が進み、全学級で一定の水準が確保された。 ●いじめ根絶に向け、心の教育と人間関係づくりの活動を通して、実践力育成が必要である。 ○生徒が右田地域や山口県各地に出向いて、地域素材に直接触れたり地域住民とかかわる活動が活性化した。 ●小中連携や地域連携の取組や研修がコロナ禍で停滞気味であった。</p>	<p>・「伝え合う活動」を取り入れた授業改善を進め、深い学びや確かな学力につながるよう工夫する。 ・生徒の学力向上対策として、一人一台のタブレットの活用、家庭学習による定着、早朝やテスト期間中の勉強会による補習等について工夫する。 ・各行事において、一層生徒の主体性を大切にして企画し運営する。 ・基本的な生活規律の向上に向け、生徒会活動を活性化し生徒の自主的取組を推進する。 ・道徳授業と体験活動の充実や、適切な人間関係づくりの取組を通して、いじめのない学校づくりを進める。 ・学校運営協議会や右玉子ネットへの教職員の積極的参加を促すと共に、行事精選や業務負担の平準化を図る。</p>
--	---